



看護の旧体制を棄てよ

福田 邦 三

看護界の長老が出しておられる或る月刊新聞の最近の号に東大の衛生看護学科のことが紹介され、その中に「学生の一部の者が看護の業を医師に従属するものとして賤視し、教員の資格をとつて教育界に入ろうとしている。自分達は大学卒業の看護婦を待望していたのに、そんなことになつては遺憾千万だ」という意味の記事がありました。

これを読んで私はわれわれが意図している日本の看護体制の近代化ということについて、全国の看護婦諸姉の奮起を促したい大切な問題がここにあるということと、衛生看護学科の性格について一般の誤解を解いておきたいということとの二つの理由からここに筆をとりました。

看護は看護婦のものである

私がここにこのような標語をこと新しく掲げたのは、看護が看護婦の仕事であるということ、医師の仕事でも附添の仕事でもない、看護婦のタスクであるという信念が大切だと思うからであります。看護婦が看護について医師の指示をうけてはじめて行動するというのでは事がさかさまだと思います。もちろん患者の身心の現状、今後の見通しについては医師の把握する所、洞察する所を看護婦は充分取り入れなければなりませんし、看護の方針についても医師の助言は重要視すべきであります。

しかし如何なる看護が必要であり、適切であるかということは、医師よりもよく看護のことを知つている看護婦の思慮と決断とによるべきであります。看護婦は単に看護の技術者だけに止るべきではなく、看護の企画者で遂行者でなければなりません。したがつて施設、状況の許す範囲内で、最善の適正な看護がなされたか否かは、医師の責任ではなく、全く看護婦の責任事項であります。

この意味で私は「看護は看護婦のものである」と申すのであります。そうでなければ本当の意味での看護婦の名に値しません。

看護婦は患者に代り患者の家人に代つて、患者が何を必要とするかを考え、愛情と思慮とを以て患者を直接護る者であります。単に医師の命令を実施する補助員であつてはならないと思います。もちろん診療の介助ことに手術の介助に看護婦が利用されますけれども、その場合にも命令の実施者ではなく、有能な協力者として参加するのであります。

かように考えて来ると、旧制度の看護婦養成組織が如何に不満足なものであつたかが明らかであります。戦後の看護教育の改革はこれの是正を企てたものであります。かくて新しい教育を受けた看護婦は旧制度の看護婦とはカテゴリーのちがつたものになつた筈であります。ところがその新看護婦が日本の多くの病院に於て果して右に述べたような近代的看護婦の本当の機能を發揮するように服務していますか、また服務させられていますか。私はこの疑問に対し全面的に肯定的返事をする勇氣を持ちません。どうしても声を大にして **看護婦は看護のためのものである** ということを強調しなければなりません。

正規の高い教育を受けた看護婦でなくても、頭があれば短期間の修練で立派にできる仕事や、気の利いたインテリ婦人ならば誰にでもできる日常茶飯の雑役に時間を取られているような事例はないでしょうか。それは実に看護婦を本来の職務以外に利用しているものであります。化学天秤で封書の日方をはかつたり、ミクロトームで鉛筆を削るのが如何に馬鹿げたことであるかを考えれば、看護婦を雑役に使うことの愚かさ、理不盡がわかると思います。

もちろん患者の必要のためには看護婦はどんな苦しいことでも敢てする純情の持主でなければなりません。しかしその純情をよいことにして、看護婦に雑多な業務を臈寄せする旧体制の存続は断じて許せません。看護婦はあくまで看護のためのものであります。

看護婦は医師に奉仕する役目ではない

封建的社会では道理よりも権力がものをいい、協力体制でなしに服従体制が行動を規制します。日本の看護婦は明治時代には医師の従属物として発生し、服務したものであります。しかし民主化したと称する日本で、今だに「医師にとつて使いやすい」看護婦が要望されるのは何としたことでしょうか。こんなことでは日本に本当の看護は殆んど行われなってしまう。

現在なお旧体制の看護婦気質として、医師に奉仕する気持がまだ抜けない人

- (1) 病院——臨床看護婦として
- (2) 保健所——保健婦，衛生看視員として
- (3) 事業所——産業保健婦，健康管理者として
- (4) 看護保健の職業教育——高等看護学院などの専任教員として
- (5) 学校健康管理——養護教諭，教育委員会職員として
- (6) 学校健康教育——保健，理科の教諭として

(現在の制度では健康教育の基礎面が理科に，実践面が保健に分けて編成されています)

等であります。これらはいずれも国民の健康生活確保のため，当学科卒業生が赴いて向上改善をはからなければならない方面だと信じております。

本学科卒業生を専ら臨床看護婦として方向づけることには，日本医師会及び大学設置審議会の強い反対があつたという，創設当時の事情を御存じの方は案外少ないかもしれません。この反対は「看護婦というものは気が利いておとなしく，医師にとつて使い易いものであればよいので，あまり高等の知識は要らない」という旧時代的考え方からきています。私は，近代的看護の何たるやを解しないこの考え方に，医学界の現状を知つて，驚き且つ悲しんだ次第であります。しかし，衛生看護学科卒業生の予想される就職先が，現状ではおそらく臨床看護よりも保健衛生方面に強く傾斜するであろうということと，看護学校（高等看護学院，看護短期大学）の教員になるためには相当の素養が必要であるということが理解されたので，この反対も漸く解消し，創設が認められた次第であります。

しかし果してこのような有様でよいものでしょうか。世界の文明国で思慮深い根柢ある看護が看護婦によつて企画され，患者の福祉がまもられているのに現在多くの日本の病院で行われているように，看護婦が医師の従属物のようになつて，看護の企画と責任が暗黙の内に医師にあり，その手技だけが看護婦の手で行われるというのは，看護婦が本当の看護をしていないということになりはしないでしょうか。

私は衛生看護学科の中の品性，学識ともに優秀な学生が将来臨床看護にはいつて行つて，日本の看護を先任の看護婦諸姉とともに根本から建て直おして近代化することを切に望んでおります。

(東大医学部衛生看護学科主任)

があります。これは悲しむべき前近代性であります。看護婦は直接に患者の必要とするところ「ニード」に奉仕しなければならない。その意味において看護婦の立場は医師と対等、平行なのであります。

「医師が使いよい看護婦を」などという封建思想は以てのほかであります。看護婦諸姉は今こそ奮起して自主的責任において本当の看護をし、他の役務は看護婦の命令によつて動くべき他の職種の作業とするべきではありませんか。

衛生看護学科の学生は卒業後、本当の看護のできる所での服務を望んでおります。以て非なる看護、看護に非ざる看護は、看護婦の指揮下においた他の職種に委ねるべきだと主張しています。私どもも同意見であります。新しい時代の看護婦諸姉はすべてこの意見に賛同されると存じます。

彼女らのこの考え方は旧体制の看護に反対するものですから、うつかりした人から見ると、看護を厭うように見えたのかもしれませんが。また旧時代的考え方をする医師およびこれに隷属する無自覚の看護婦から見れば生意気にも見えるでしょう。

封建的社会の制度に抗議する者は、一応みな生意気のレッテルを貼られます。小作人の正当な主張は地主から生意気といわれました。軍隊で古参兵の不当な要求にも屈従しなければ、新兵は生意気だとしてビンタをくいました。実に生意気の評は近代化運動の名誉ある従軍徽章であります。

われわれは一日も早く、日本の看護体制から封建思想を払拭して、中味も外形も近代化しなければなりません。そのためには看護婦諸姉が看護の本質に目覚め、勇気をもつて、全看護界が一同となつて改革を進められることを切に望むものであります。

衛生看護学科は日本の臨床看護の近代化と

保健活動の本格化とを目標としている

東大の衛生看護学科というのは、広くヘルス・ケアーに関する専門科学ならびに技術、したがつてナーシングを教える所ではありますが、大学教育の本質に徒い、必ずしも職業教育の機関ではありません。従つて卒業生が看護婦になり得るような教育は授けますが、実際に於て皆がみな看護婦になるということは初めから予想しておりません。

現在、保健看護の技能をもつた大学卒業生を客観的にも必要としており、事実また採用の意向を表明されている向きは凡そ次の通りであります。但し大学に残つて研究をつづけるものは除きます。